

あなたと共に生きる道

ミュージアムロード

【現状】

多くのアート作品が
点在している。
しかし多くの方は
「なんかあるな」と
通り過ぎてしまう。

【構造的な課題】

二つの大きな駅を境に
山側と海側で空気が変わり
一本の“道”としての
一貫性が感じられにくい。

ミュージアムロードは
“アートがそこにある道”から
“アートと自分を重ねる道”に

通るたびに、
人生の時間が重なっていく。

道を、人生として読み替える



アートと
【はじまる】

山側 (動物園、大学建設予定地)

身近な場所で、
はじめてアートと出会う

アートと
【重なる】

中間 (駅周辺)

暮らしと重なり、
アートと自分が
近づく

アートと
【思い出す】

海側 (兵庫県立美術館周辺)

アートを見て、
人生を思い起こす
それもやがて
人生の一部となる

人生と共に変化する、ミュージアムロード

同じ道を、違う自分で、何度でも歩く



山側:アートと【はじまる】

- ・カラフルなタイルが足元に広がる
- ・動物たちのシルエットが、ふと現れる

中間:アートと【重なる】

- ・時間帯によって表情を変える光
- ・毎日通るからこそ、ある日ふと、今の自分と重なる

海側:アートと【思い出す】

- ・誰かと並んで、立ち止まりたくなるような光
- ・文学の一節やアートが、道に静かに浮かび上がる



子どもの頃→大人→誰かと歩く道